

平成30年度  
かごしまルネッサンスアカデミー  
履修証明プログラム

「稲盛経営哲学プログラム」(第7期)  
募集要項

鹿児島大学

# 目 次

## かごしまルネッサンスアカデミー履修証明プログラム

### 「稲盛経営哲学プログラム」 募集要項

I. はじめに	1
II. 募集について	1
1. 募集人員	1
2. 受講のための資格	1
3. 受講料	1
4. 教科書	1
III. 申請手続き	1
1. 申請期間	1
2. 申請方法	2
3. 申請書類	2
4. 申請書類の提出先	2
5. 申請上の留意事項	2
6. 選抜方法	2
7. 受講者の決定	2
IV. カリキュラム・修了要件	2
1. 開講式	2
2. 開講期間	2
3. 修了式	2
4. 開講場所	3
5. 修了要件	3
V. その他	3
1. 修了証明について	3
2. お問い合わせ先	3
稲盛経営哲学プログラム開講日程	4～5
稲盛経営哲学プログラムシラバス	6～14
申請書類一式	15～18

## かごしまルネッサンスアカデミー履修証明プログラム 「稲盛経営哲学プログラム」第7期 募集要項

### I. はじめに

「稲盛経営哲学プログラム」は、社会人を対象に、「稲盛経営哲学」を学んで頂くことにより、進取の精神を涵養し、経営者や地域社会のリーダーとして活躍する人材を育成していくことを目的に、開講しております。

本プログラムでは、『稲盛経営哲学の成り立ち』、『稲盛和夫の歩み』、『実学—経営と会計—』、『経営12カ条』、『アメーバ経営論』、『実践経営論』、『稲盛フィロソフィ』の7つの科目について、計120時間の講義を体系的に学んで頂きます。

第7期も、毎年度好評の『実践経営論』を引き続き開講し、実際の経営の現場で活躍されている方からの講義を計画し、稲盛経営哲学の理論と実践の両面について学んで頂ける充実した内容となっております。また、稲盛アカデミー客員教授による『稲盛フィロソフィ』では、全国の稲盛研究の最高峰の方々にそれぞれの立場から講じて頂きます。

本募集要項では、稲盛経営哲学プログラム第7期受講生を以下の要領で募集します。

### II. 募集について

#### 1. 募集人員

- ・稲盛経営哲学プログラム：40名（定員を超える応募があった場合は選考を行います）。

#### 2. 受講のための資格

- ・高校卒業又は高校卒業と同等と認められる者

#### 3. 受講料

- ・41,160円（税込）

※その他、実習等に係る保険料等をご負担頂く場合があります。

※車で通学（本校への入構）を希望される場合は、別途実費（7,669円）負担となります（鹿児島大学交通規則に基づく審査を経て、入構証及びパスカードを発行します）。

#### 4. 教科書

- ・『稲盛和夫の実学—経営と会計—』 稲盛和夫 著（日本経済新聞社1998年）
- ・『アメーバ経営—ひとりひとりの社員が主役—』 稲盛和夫 著（日本経済新聞社2006年）

### III. 申請手続き

#### 1. 申請期間

- （1）募集期間：平成30年6月6日（水）～平成30年8月6日（月）必着

## 2. 申請方法

### (1) 申請書類の入手方法：

申請書類は本誌15頁～18頁にあります。

稲盛アカデミーホームページからダウンロードすることもできます。

<http://www.inamori.kagoshima-u.ac.jp/>

なお、募集要項・申請書類一式の送付を希望される方は、事務室へ直接お問合せください。

### (2) 申請書類の提出方法

郵送（簡易書留）のみといたします（※平成30年8月6日（月）必着です）。

## 3. 申請書類

①提出書類チェックシート

②様式1 受講申請書

③様式2 履歴書

④様式3 受講希望理由書

## 4. 申請書類の提出先

・鹿児島大学稲盛アカデミー事務室

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30（稲盛アカデミー棟2階）

## 5. 申請上の留意事項

(1) 申請書類を郵送する場合は「簡易書留」とし、封筒の表に「稲盛経営哲学プログラム受講申請書在中」と朱書きしてください。

(2) 申請書類の不備な物は受け付けられませんので、記載には十分ご留意ください。

(3) 虚偽の記載があったものは、受講許可を取り消す場合があります。

## 6. 選抜方法

・受講者の選抜は、受講資格を満たしているか確認のうえ決定します。定員を超える応募があった場合は書類選考を行います。

## 7. 受講者の決定

・平成30年8月末までに本人へ通知文書等を発送します。

## IV. カリキュラム・修了要件

1. 開講式：平成30年9月8日（土）10時～

2. 開講期間：平成30年9月8日（土）～平成31年2月23日（土）

3. 修了式：平成31年3月16日（土）10時30分～（予定）

4. 開講場所：鹿児島大学稲盛アカデミー棟講義室

5. 修了要件：

総時間数120時間の講義を履修し、かつ、所定の課題についてのレポートを提出し、合格と判断されること。

(鹿児島大学の特別の課程における履修証明プログラムに関する規則に準じる)

※欠席された回については、全講義時間数の3割（36時間）までは、講義撮影しました動画（インターネットまたはDVD）をご視聴の上、その回のフィードバックシートを提出して頂けましたら、出席と認めます。

## V. その他

1. 修了証明について：

・定められた修了要件を満たした方には、履修証明制度に基づき「履修証明書」を交付します。

2. お問い合わせ先：

鹿児島大学稲盛アカデミー事務室

Tel: 099-285-3751 E-mail : inamori@kuas.kagoshima-u.ac.jp

8時30分～17時15分（土日・祝祭日は除く）

平成30年度 履修証明プログラム「稲盛経営哲学プログラム」第7期 開講日程

回	開講日	開講時間	時間
開講式・オリエンテーション	9月8日	10:00 ~ 10:50	
1		11:00 ~ 13:00	2
		14:00 ~ 16:00	2
		16:10 ~ 18:10	2
2	9月22日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
3	9月29日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
4	10月6日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
5	10月13日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
6	10月20日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
7	10月27日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
8	11月3日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
9	11月10日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
10	12月1日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
11	12月8日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
12	12月15日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2

回	開講日	開講時間	時間
13	12月22日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
14	1月5日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
15	1月12日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
16	1月26日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
17	2月2日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
18	2月9日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
19	2月16日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
20	2月23日	10:00 ~ 12:00	2
		13:00 ~ 15:00	2
		15:10 ~ 17:10	2
修了式	3月16日	10:30 ~ 11:00	

※ 開講日はいずれも土曜日です。

但し、祝日3連休の9月15日、11月24日、大学祭期間中の11月17日、年末の12月29日、大学入試センター試験期間中の1月19日は休講です。

※ 講義の計画は多少、変更される可能性もありますので、予めご了承ください。

## 【科目名】 稲盛経営哲学の成り立ち

【担当教員】 武隈 晃・吉田 健一

【時間数】 6時間 (3回×120分)

### 【科目概要】

本講義は、「稲盛経営哲学履修証明プログラム」を開始するに当り、稲盛氏の生い立ちや、氏が歩んで来た道程を最初に説明する。いわば、本講義はその後の講義を受講して頂くにあたっての入門編である。

本プログラムの中では「稲盛フィロソフィ」という言葉は随所に出てくるが、そもそも「稲盛フィロソフィ」の特徴は何であるか、「稲盛フィロソフィ」はどのような諸々の要素から構成されているのか、また、どのような経緯を経て、今日の「稲盛フィロソフィ」は成立するに至ったのかについて解説する。

### 【学習目標】

1. これから「稲盛経営哲学履修証明プログラム」を学んでいくにあたって、稲盛和夫氏経営哲学の基本（どのような特徴があり、どのような内容から構成されているのか）について理解する。
2. 稲盛氏のこれまでの歩みについての概略を理解し、この後の講義を受けるにあたっての基本的な知識を身につける
3. 稲盛氏の経営哲学がどのような経緯を経て成り立ったのかについて、今後の講義を受けるにあたっての基礎知識を得る。

### 【開設予定講習】

1. 稲盛経営哲学の成り立ち (1)	講義	経営哲学と稲盛フィロソフィ
2. 稲盛経営哲学の成り立ち (2)	講義	稲盛和夫氏の今日までの歩みについて
3. 稲盛経営哲学の成り立ち (3)	講義	稲盛経営哲学を構成する主要な要素について

### 【教科書】

- ・ 講義時に資料を配布致します。



## 【科目名】稲盛和夫の歩み

【担当教員】吉田 健一

【時間数】14時間（7回×120分）

### 【科目概要】

本講義では稲盛和夫氏の今日までの歩みを丁寧に解説する。今日、稲盛氏の歩みを知るには本人の自伝『稲盛和夫のガキの自叙伝』（2002年・日本経済新聞社）、加藤勝美氏による評伝『ある少年の夢—稲盛和夫創業の原点—』（昭和54年・現代創造社）がある。また米国ケミカル・ヘリテージ財団による『稲盛和夫オーラルヒストリー』なども参考になる。だが、『ガキの自叙伝』は2004年まで、『ある少年の夢』は昭和54年までの記述しかない。

本講義では今日までの氏の歩みを全て網羅する。講義の中では企業家としての面のみならず、盛和塾や稲盛財団などの社会貢献活動や総合雑誌での社会的発言、著書とその内容、思想的発展がどの時期になされて行ったかなども丁寧に見て行く。

### 【学習目標】

1. 今日までの稲盛氏の歩みを理解する。
2. 稲盛氏の半生と日本社会のその時々々の時代背景を理解する。
3. 稲盛氏の企業経営者と社会活動家としての2つの面を理解する。

### 【開設予定講習】

1. 鹿児島時代の稲盛氏の事績 (1932年～1954年)	講義	誕生から幼少期の稲盛氏の精神形成について講義した後に、第2次大戦後直後から、鹿児島大学卒業までの事績を解説する。
2. 松風工業入社から京都セラミック 起業まで(1955年～1959年)	講義	稲盛氏が京都に行き社会人になってから、京都セラミックの起業を決意するまでの事績を解説。
3. 京セラの創業直後 (1959年～1964年)	講義	京セラ創業直後の状況について解説する。当時の経営の状況などを概観する。
4. 京セラの経営と発展 (1965年～1985年)	講義	京セラ創業から上場企業になるまでの歩みについて概観した後、京セラの発展過程について解説する。事業の多角化や合併について概観する。
5. 京都賞の設立、第二電電の設立— (1981年～1987年—)	講義	第二の創業といわれる、第二電電（現：KDDI）の創業、京都賞の設立などについて概観する。
6. 公職・世界的視野での活動、財界 活動、社会貢献、盛和塾、KDDI の誕生、得度(1980年～2008年)	講義	稲盛氏の企業家としての活動以外の、諸々の社会貢献活動について解説した後に、DDIからKDDIに至る過程、通信業界の変化、盛和塾の誕生について概観する。
7. 大和の家、日本航空の再建、各種 の受賞・名誉博士号 (1994年～2013年)	講義	社会福祉に関する稲盛氏の業績、最近の日航の再建過程について概観する。まとめとして、稲盛氏が受けた賞や著作などについても概観する。

#### 【参考文献】

- ・ 稲盛和夫『稲盛和夫のガキの自叙伝』（日経ビジネス文庫・2004年）
- ・ 稲盛和夫『アメーバ経営―ひとりひとりの社員が主役―』（日本経済新聞社・2006年）
- ・ 稲盛和夫『人生の王道―西郷南洲の教えに学ぶ―』（日経BP社・2007年）
- ・ 京セラ株式会社編『果てしない未来への挑戦―京セラグループ50年の歩み―』（京セラ株式会社・2010年）
- ・ 米国ケミカル・ヘリテージ財団編『稲盛和夫オーラルヒストリー』（ケミカル・ヘリテージ財団・2012年）
- ・ 加藤勝美『ある少年の夢 稲盛和夫創業の原点』（改訂版・出版文化社・平成16年）
- ・ 吉田健一「稲盛和夫の少年時代と鹿児島精神教育」（鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要第2号所収・2010年）
- ・ 吉田健一「鹿児島時代の稲盛和夫―幼年時代から学生時代まで―」（鹿児島大学稲盛アカデミー紀要第3号所収・2012年）
- ・ 吉田健一「稲盛和夫の政治思想―その特徴と理想―」（鹿児島大学稲盛アカデミー紀要第3号所収・2012年）
- ・ 吉田健一「近代日本の経営思想とその特徴―労働観・利益観を中心として―」（鹿児島大学稲盛アカデミー紀要第4号所収・2013年）

※ 参考文献は、講義中に紹介予定です。購入する必要はありません。

※ 吉田の著作については適宜、配布する予定です。

## 【科目名】実学—経営と会計—

【担当教員】吉田 健一・劉 美玲

【時間数】12時間（6回×120分）

### 【科目概要】

本講義は稲盛和夫氏の「哲学」に対して「実学」に焦点を当てたものである。本講義では稲盛氏の著書『稲盛和夫の実学—経営と会計—』（1998年・日本経済新聞社）について、講義する。稲盛氏の会計思想がどのように誕生したのか、稲盛氏が会計において重視していることは何かについての理解を深めるために、テキストを熟読していく。

なお、他の講義との内容の重複を避けるために、テキストは全ての章は解説せずに、6回に絞って解説する。吉田と劉が共同で担当する。

### 【学習目標】

1. 稲盛氏の会計学の思想と手法を理解する。
2. 稲盛氏の経営手法についての理解を通じ、他の講義で扱うフィロソフィ（哲学）と「実学」の関係を体系的に理解する。

### 【開設予定講習】

1. 実学—経営と会計— (1)	講義	序章：私の会計学の思想
2. 実学—経営と会計— (2)	講義	第1章：キャッシュベースで経営する
3. 実学—経営と会計— (3)	講義	第2章：一対一の対応を貫く
4. 実学—経営と会計— (4)	講義	第3章：筋肉質の経営に徹する
5. 実学—経営と会計— (5)	講義	第5章：ダブルチェックによって会社と人を守る
6. 実学—経営と会計— (6)	講義	第6章：採算の向上を支える

### 【教科書】

- ・ 『稲盛和夫の実学—経営と会計—』（1998年・日本経済新聞社）

## 【科目名】 経営 12 カ条

【担当教員】 牧原 千尋・吉田 健一

【時間数】 24 時間 (12 回×120 分)

### 【科目概要】

稲盛和夫氏の「京セラ経営 12 カ条」を逐条ごとに解説し、稲盛氏のフィロソフィの神髄を解説していく。「経営 12 カ条」は稲盛氏の経営哲学が凝縮されたもので、その本そのものは非売品で世に出されていない。だが、この講義では基本的には（盛和塾などでの講演を除き）門外不出（社外秘）とされてきた「経営 12 カ条」について丁寧に逐条解説を行う。

### 【学習目標】

1. 「京セラ経営 12 カ条」を 1 条ごとに理解する。
2. 「京セラ 12 カ条」の学びを通じて稲盛氏の基本的なフィロソフィ（京セラフィロソフィ）を理解する。

### 【開設予定講習】

1. 「経営 12 カ条」第 1 条	講義	事業の目的、意義を明確にする
2. 「経営 12 カ条」第 2 条	講義	具体的な目標を立てる
3. 「経営 12 カ条」第 3 条	講義	熱烈な願望を心に抱く
4. 「経営 12 カ条」第 4 条	講義	誰にも負けない努力をする
5. 「経営 12 カ条」第 5 条	講義	売上を最大限に伸ばし、経費を最小限に抑える
6. 「経営 12 カ条」第 6 条	講義	値決めは経営
7. 「経営 12 カ条」第 7 条	講義	経営は強い意思で決まる
8. 「経営 12 カ条」第 8 条	講義	燃える闘魂
9. 「経営 12 カ条」第 9 条	講義	勇気をもって事に当たる
10. 「経営 12 カ条」第 10 条	講義	常に創造的な仕事をする
11. 「経営 12 カ条」第 11 条	講義	思いやりの心で誠実に
12. 「経営 12 カ条」第 12 条	講義	常に明るく前向きに、夢と希望を抱いて素直な心で

### 【参考文献】

- ・ 稲盛和夫『京セラ 経営 12 カ条』（2005 年・京セラ株式会社）

※ 参考文献は非売品ですので、講義では参考文献のコピー及び要約テキストを配布致します。

## 【科目名】アメーバ経営論

【担当教員】牧原 千尋・劉 美玲

【時間数】28時間（14回×120分）

### 【科目概要】

本講義は京セラが創業間もなく次第に規模を大きくしていく過程で、大きくなった組織をどのようにコントロールしたらいいのかという稲盛和夫氏の悩みから閃いた経営管理手法であるアメーバ経営について、会社を小集団の組織に分けて独立採算制で管理するための経営管理の仕組みと、その運営にはベースとして経営哲学が必須であり全員参加の経営がもつ力の大きさについて学ぶ。また、受講者の理解を深めるために担当教員が京セラ在職中に得た実体験を通じた講義（牧原）に加えアメーバ経営における管理会計の概論（劉）の講義を行う。最後に京セラ鹿児島国分工場を訪問する現場研修を企画し、組織力の強さの根源を理解する。

### 【学習目標】

1. アメーバ経営が生まれた背景を理解する。
2. 時間当たり採算表を理解する。
3. アメーバ経営を支える経営哲学の重要性を理解する。

### 【開設予定講習】

1. アメーバ経営 (1)	講義	まえがき、アメーバ経営の誕生から全員参加経営の実現と経営哲学の必要性までを概観し解説をする。
2. アメーバ経営 (2)	講義	組織を小集団に分ける意味から全従業員が採算意識を高めるための意義まで解説する。
3. アメーバ経営 (3)	講義	時間当たり採算表の解説を通じて収入、経費、時間の捉え方を解説する。
4. アメーバ経営 (4)	講義	アメーバ経営における管理会計の概論Ⅰを解説する。
5. アメーバ経営 (5)	講義	守らなければならない会計の原則について解説する。
6. アメーバ経営 (6)	講義	アメーバ経営における管理会計の概論Ⅱを解説する。
7. アメーバ経営 (7)	講義	アメーバ経営における採算管理の実際について解説する。
8. アメーバ経営 (8)	講義	アメーバ経営における管理会計の概論Ⅲを解説する。
9. アメーバ経営 (9)	講義	リーダーの育成に焦点を当て、その心構えについて解説をする。
10. アメーバ経営 (10)	講義	マスタープランの位置づけと月次計画、年度計画の実行実践の重要性を解説する。
11. アメーバ経営 (11)	講義	アメーバ経営論のまとめ、リーダーとしての資質と心構えの重要性
12. アメーバ経営 (12)	現場研修	鹿児島国分工場を訪問しアメーバ経営の実践を学ぶ。
13. アメーバ経営 (13)	現場研修	鹿児島国分工場を訪問しアメーバ経営の実践を学ぶ。
14. アメーバ経営 (14)	現場研修	鹿児島国分工場を訪問しアメーバ経営の実践を学ぶ。

**【教科書】**

- ・ 稲盛和夫『アメルバ経営』（日本経済新聞社・2006年）

**【参考文献】**

- ・ 稲盛和夫『稲盛和夫の実学 ―経営と会計―』（日本経済新聞社・2006年）
- ・ アメルバ経営学術研究会『アメルバ経営学―理論と実証―』（丸善出版（株）・2011年）

## 【科目名】 実践経営論

【責任教員】 吉田 健一 【講義担当者】 企業経営者（盛和塾鹿児島に所属の経営者）

【時間数】 12時間（6回×120分）

### 【科目概要】

本講義は、現役の企業経営者による講義である。本講義では実社会において企業経営者として活躍されている方々を講師に迎えオムニバス形式で講義を進める。

「経営」は理論や細かな知識、その大元となるフィロソフィが重要であることは勿論であるが、常に経済状況の変動する実社会における実践そのものである。この「稲盛経営哲学プログラム」においては、より実践性の高いプログラムを目指しており本講義は、そのような考え方から開発されたものである。

本講義の講師はいずれも稲盛和夫氏に経営を学ぶ盛和塾のメンバーであり、いわば「稲盛経営哲学」を実際の経営で実践されている方々である。本講義では、書籍や机上での学びをどうすれば、実社会で実践できるのかという観点からの講義を行う。受講生と経営者の質疑応答を中心とする「実践経営問答」も想定している。

### 【学習目標】

1. 現場での経営者の苦労や経営判断をする時の基準、従業員の人心掌握術のコツや各々の経営者の哲学に触れる。
2. 担当講師との質疑応答やディスカッションを通じて、本当の経営実践に必要なものが何かを各自がつかみ取る。
3. 経営に携わる人もそうでない人も、講師の講義とその後の議論から、自分なりの価値基準を確立する。

### 【開設予定講習】

1. 実践経営論 (1)	講義	現役企業経営者による講義 (1)
2. 実践経営論 (2)	講義	現役企業経営者による講義 (2)
3. 実践経営論 (3)	講義	現役企業経営者による講義 (3)
4. 実践経営論 (4)	講義	現役企業経営者による講義 (4)
5. 実践経営論 (5)	講義	現役企業経営者による講義 (5)
6. 実践経営論 (6)	講義	現役企業経営者による講義 (6)

## 【科目名】 稲盛フィロソフィ

【担当教員】 日置 弘一郎・高 巖・三矢 裕・青山 敦

【時間数】 24時間（12回×120分）

### 【科目概要】

本講義は鹿児島大学稲盛アカデミーの客員教授 4 名によるオムニバス形式の講義である。本講義では、1 人の客員教授に 1 つのテーマで終日講義して頂くことを想定している。

それぞれの客員教授は稲盛研究の日本における最高峰の専門家である。客員教授は経営学、アメーバ経営論、組織論、企業会計論、社会哲学、経済人類学などの専門家であり、様々な学問分野から稲盛フィロソフィはどのように見ることが出来るのかについて幅広く講義して頂く。

### 【学習目標】

1. それぞれの専門家から見た稲盛経営哲学の解釈や意味を理解する。
2. 稲盛和夫氏の経営哲学が経営学の専門家から、どのように評価されてきたのか、稲盛氏のフィロソフィに関心を持って研究してきたのかについて、その意味を理解する。

### 【開設予定講習】

1. 稲盛経営哲学概論 (1)	講義	客員教授による講義 (1)
2. 稲盛経営哲学概論 (2)	講義	客員教授による講義 (2)
3. 稲盛経営哲学概論 (3)	講義	客員教授による講義 (3)
4. 稲盛経営哲学概論 (4)	講義	客員教授による講義 (4)
5. 稲盛経営哲学概論 (5)	講義	客員教授による講義 (5)
6. 稲盛経営哲学概論 (6)	講義	客員教授による講義 (6)
7. 稲盛経営哲学概論 (7)	講義	客員教授による講義 (7)
8. 稲盛経営哲学概論 (8)	講義	客員教授による講義 (8)
9. 稲盛経営哲学概論 (9)	講義	客員教授による講義 (9)
10. 稲盛経営哲学概論 (10)	講義	客員教授による講義 (10)
11. 稲盛経営哲学概論 (11)	講義	客員教授による講義 (11)
12. 稲盛経営哲学概論 (12)	講義	客員教授による講義 (12)



## 提出書類チェックシート

受講希望コース	稲盛経営哲学プログラム
勤務先および役職	
氏名	

提出書類	
<input type="checkbox"/> 提出書類チェックシート（本用紙）	本用紙
<input type="checkbox"/> 受講申請書	様式1
<input type="checkbox"/> 履歴書	様式2
<input type="checkbox"/> 受講希望理由書	様式3

※ 提出書類について欠落がないかチェックの上、本状も提出願います。

※ 「簡易書留」にて郵送願います。

受付番号 ※事務局記載	
----------------	--

## 平成30年度 かがしまルネッサンスアカデミー受講申請書

受講希望コース	稲盛経営哲学プログラム		写 真	(4.0cm × 3.0cm)
ふりがな		男 ・ 女	生年月日(和暦)・年齢	
氏名		昭和 平成	年 月 日( 歳)	
連絡先等 (自宅)	〒			
TEL	( )	携帯電話		
FAX	( )	E-mail		
連絡先等* (勤務先)	〒			
	勤務先名*		役職	
TEL*		FAX*		
通知文書等の送付先	自宅 ・ 勤務先			
緊急連絡先氏名・電話番号	氏名			
	電話番号			
入構車両パスカード購入希望	有 ・ 無			

1. 講義についてのお知らせやイベントのご案内、欠席された回の講義資料の送付などを事務局よりメール配信いたします。  
一般的な携帯電話のメールアドレスでは添付ファイルの受信ができません。  
添付ファイルの受信ができるメールアドレス(パソコン・スマートフォン・タブレット対応メールアドレス)をご記入ください。
2. 車での通学(本学への入構)を希望される場合は別途実費(7,669円)負担となります。  
(鹿児島大学交通規則に基づく審査を経て、入構許可証及びパスカードを発行します)
3. 申込みに際し、ご記入頂いた個人情報、受講申請の確認、連絡、名簿作成、保険加入、受講者の統計以外の目的には使用いたしません。

## 履 歴 書

氏名 \_\_\_\_\_

最終学歴	年 月	卒業
職歴	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
免許 ・ 資格	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	

